

経営体の概要

- ・所在地:長野県諏訪郡原村
- ・経営体名:S農園
- ・栽培作物・作付面積:アルストロメリア・0.3ha
- ・従業員数:7名(内臨時2名)(平成30年9月現在)

導入経緯

- 高品質な花き生産のため、土壌養分等の測定が必要であったが、時間がかかるのが課題であった。
- そこで測定値の随時見える化を目的に、平成27年に土壌センサ及び気温センサ等を導入した。

導入技術

- ・FlowerPower(Parrot製)
太陽光量、外気温、肥料濃度、土壌水分を計測し、Bluetoothでリアルタイムにスマホに送信。データベースからアドバイス有。
- ・ウェザーステーション(Netatmo製)
気温、湿度、CO2濃度を計測し、Wi-Fiで通信。クラウド上でデータ確認、保存が可能。

取組の特徴・効果

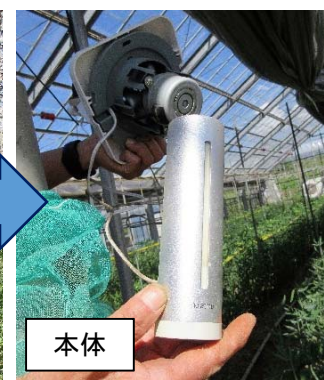
- 土壌水分、養分(EC値)をリアルタイムで測定し、灌水、施肥のタイミングを判断。ハウス内気温をモニタリングすることで適切な換気が可能になった。
- これにより、ハウス巡回数がー1回/日(約3分)削減され、時間的な余裕ができた。(18.3h/年)
- コスト面で折り合いがつけば、ハウスの自動制御も検討する予定。

【FlowerPower】



◆センサ(10cm程度)を土中に差し込み計測。データはBluetooth通信範囲に来るとスマホに送られてくる。
◆同社にアカウントを作成するとデータベースからのアドバイスが受けられる。

【ウェザーステーション】



◆気温が正確に測れるようセンサを直射日光から遮り、ファンで通風している。
◆外気温も計測し、ハウス内外の温度差を確認し、開閉の判断基準としている。